

ハイゴケ+ 混植庭園材

特徴と植付け・管理のポイント

基礎

ハイゴケプラスは《ハイゴケを基盤に複数のコケを混植》

特性の違う2種類以上の苔を混ぜて植えるのが混植栽培。植えた場所に適した苔が育ち、コロニーの形成を期待した植付法です。ハイゴケプラスはハイゴケを基盤に、乾燥性・湿潤性・好日性・日陰性など多様な性質の苔を混植栽培した商品です。

混植（MIX）コンセプトと管理のコツ

庭に適した苔を残す



苔の性質は多様で、生育できる環境も様々。しかも種類の多い巨大な植物群です。この中からご自宅の庭に適した苔を選ぶのですが、庭の環境と苔のマッチングはかなり難しく、実際に植えてみないと分からぬところがあります。もし定着しなければ、時間と労力の無駄になります。混植法は多様な複数の苔を植えます。何年かたつとその環境に適応できない苔は消えてなくなり、数種類の苔が残ります。それもやがて淘汰され、最終的に1~2種類の、庭の環境に適した苔だけが残ります。或いは最後に地苔しか残らなかったと言うこともあるかもしれません。画像は混植8年目で山苔が残りました

大きく徒長させない



環境に合わない苔は衰退し、環境に適合した苔は大きく育ちます。環境に恵まれた苔の生育は早く、美しいコロニーを作りますが、あまりに早すぎる成長は苔を軟弱にします。安定した環境下であれば軟弱な苔でも枯れませんが、過保護で育った苔は季節ごとの暑さや寒さ、乾燥などの変化に対応できなくなります。植え付けてからの水やりや遮光は必要かもしれませんのが過剰は禁物。不自然な徒長は抑制し、自然の降雨だけでも育つ丈夫な苔づくりを目指します。苔の上は普段歩き回るところではありませんが、草取作業などで適度に踏みつけるのも徒長抑制には効果があります。

土作り



庭土は時間の経過とともに固く締まり水はけが悪くなります。普通の植物は植えかえたり施肥により土を耕しますが、苔は施肥の必要がなく、植え替えることないので苔の下の土がカチカチに締まっています。固く締まった地面では苔は育たず衰退します。水はけが悪く重い庭土は、はじめに十分な土壤改良を行います。通気性、排水性が良く締まらない軽い土です。除草や管理で苔を踏みつけても固まらない。散水や夕立の後でも水溜まりのできない土が理想です。土壤改良は必要です。

庭園材・混植ポット



ハイゴケマットを基盤に定番の苔6種+その他数種の粉碎した種苔を加えて栽培したポット商品。乾燥に強く庭園材として好ましい山苔を多めに混ぜています。1年目はハイゴケが目立ちますが、年ごとに主役を換えながら、1~3種類のコケで安定します。

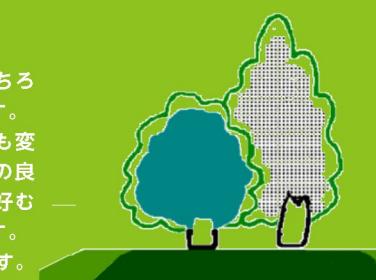


2種類でも混植

ほふく性のハイゴケと直立するスギゴケの混植。ハイゴケはスギゴケに絡まり安定し、スギゴケは極度の乾燥を防ぐことができます。多様な性質のたくさんの苔を混ぜるものも混植ですが、色味や草姿の違う苔を2種類以上組み合わせれば混植です。

半日陰~日陰地・日向・乾燥地・湿潤地

木洩れ日のあたる半日陰地はコケが良く育ちます。もちろん日陰地を好む苔もあれば、日向でも育つ苔があります。同じ庭の中でも場所によって日照時間は違、い季節でも変わります。植える場所の環境よくを観察し、日当たりの良い場所には好日性の苔を多めに、日陰地には湿潤地を好むような苔を増やすことで、定着率もずっと良くなります。混植法は施工後の苔にあとからでも追加できる栽培法です。



乾燥しやすい
日向は避ける



こんな場所を好みます